

生体指標を用いたトランス脂肪酸摂取量の曝露評価研究

1. 研究の対象

「多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究」（JPHC Study、主任研究者 澤田典絵 国立がん研究センターがん対策研究所 部長）の対象者のうち、食物摂取頻度調査票の妥当性研究（研究実施年：1994～1998 年）に参加された方で、調査票および食事記録票を提供された 565 名から、保存検体（血漿）、食事記録票および FFQ データの揃っている 350 名を対象とします。対象地域は、岩手県二戸、秋田県横手、長野県佐久、沖縄県石川（1994 年開始のコホートⅠ、男性 86 名、女性 96 名）、茨城県水戸、長崎県上五島、大阪府吹田地域（1996 年開始のコホートⅡ、男性 83 名、女性 85 名）です。

2. 研究目的・方法

研究目的：妥当性研究参加者の保存検体を用いて、工業由来のトランス脂肪酸摂取の生体指標である、エライジン酸(C18:1n-9t)およびリノエライジン酸（C18:2n-6t,9t）、反芻動物由来のトランス脂肪酸摂取の生体指標である、トランスバクセン酸（C18:1n-7t）濃度の測定を行います。これらを用いて、食物摂取頻度調査票の摂取量推定値の妥当性を検討するとともに、曝露評価方法の検証を行います。

研究方法：

＜研究デザイン＞ 横断的研究（記述疫学研究、妥当性研究）

＜測定予定血液検査項目＞ 血漿を用います

・エライジン酸(C18:1n-9t)、リノエライジン酸（C18:2n-6t,9t）、トランスバクセン酸（C18:1n-7t）

＜測定検体数＞

コホートⅠは、182 名の血漿 364 検体（2 季節）、コホートⅡは、168 名の血漿 168 検体（1 季節）の計 532 検体を使用します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- (1) 妥当性研究で収集した血漿
- (2) 妥当性研究で収集した食事記録
- (3) 妥当性研究の際に測定した生体試料中の生化学データ・栄養素データ
- (4) 多目的コホート研究（JPHC Study）で収集した生活習慣や健康状態に関するアンケート（アンケートの回答、身長、体重）
- (5) 多目的コホート研究（JPHC Study）で収集した対象地域名、性別、生年月日

4. 外部への試料・情報の提供

本研究で用いた試料・情報を国内外の機関で実施する将来の医学的研究のために、研究終了後も大切に保管させていただきます。新たな研究に用いる際には、国内外の規制に則り、あらためて研究計画書を作成して研究倫理審査委員会の承認や研究機関の長の許可を受ける等、適正な手続を踏んだ上で行います。

なお、新たな研究の概要・研究機関については、新たな研究に関わる機関（試料・情報の授受を行う機関すべて）公式ホームページ等にて情報公開いたします。

ー国立がん研究センターが参加する研究の公開情報については国立がん研究センターの公式ホームページより確認することができます。

<https://www.ncc.go.jp/jp/>

5. 研究組織・研究責任者

国立がん研究センター 澤田 典絵（研究代表者・研究責任者）

神戸大学大学院 医学研究科 質量分析総合センター 篠原 正和（研究責任者）

愛媛大学 大学院農学研究科 丸山 広達（研究責任者）

学校法人麻布獣医学園 麻布大学 石原 淳子（研究責任者）

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒790-8566 愛媛県松山市樽味3丁目5番7号

愛媛大学大学院農学研究科生命機能学専攻地域健康栄養学分野 丸山広達

TEL&FAX 089-946-9960